# 生涯学習推進計画進捗状況総括表

資料5-1

## 柱1　生涯にわたって学べる環境づくり

### アウトカム
※計画実施の結果として生じる最終的な成果・変化

◆目指す市民の姿(最終アウトカム)

市民が生活の中で新たな気づきや発見をしたり、
それぞれの興味や関心、必要に応じて学んでいる。

・指標：1年くらいの間に「生涯学習」を行った人の割合
（R3　45.6%）→増加

◆最終の姿までの状態（方針1の中間アウトカム）

多様な種類の学びについて、それぞれの興味
や関心などに応じて主体的に取り組んでいる。

・方針1の指標：熱心まちづくり出前講座の受講者人数

| | 目標 | 実績 | 達成 |
|---|---|---|---|
| R4 | 2,900 | 1,341 | × |
| R5 | 2,950 | 2,694 | × |
| R6 | 3,000 | 2,961 | × |
| R7 | 3,050 | 1,489 | × |

◆最終の姿までの状態（方針2の中間アウトカム）

時間や場所に制約を受けることなく、それぞれの
ライフステージに応じた学びに取り組んでいる。

・方針2の指標：学びに関する動画再生回数（回）

| | 目標 | 実績 | 達成 |
|---|---|---|---|
| R4 | 3,000 | 2,639 | × |
| R5 | 3,300 | 970 | × |
| R6 | 1,000 | 1,482 | ○ |
| R7 | 1,100 | 3,086 | ○ |

◆最終の姿までの状態（方針3の中間アウトカム）

必要な時に必要な生涯学習に関する情報
を入手している。

・方針3の指標：HPの生涯学習情報ページへのアクセス数（回）

| | 目標 | 実績 | 達成 |
|---|---|---|---|
| R4 | 1,600 | 8,799 | ○ |
| R5 | 1,700 | 8,282 | ○ |
| R6 | 8,300 | 8,300 | ○ |
| R7 | 8,400 | 6,788 | × |

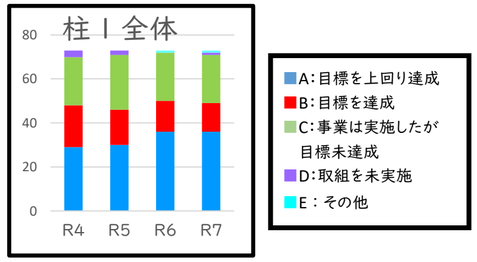
### 各所属の取り組みに対する個別評価

#### ①指標および目標の達成

◆柱1　集計

| 柱1 | A | B | C | D | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| R4 | 29 | 19 | 22 | 3 | 0 | 73 |
| R5 | 30 | 16 | 25 | 2 | 0 | 73 |
| R6 | 36 | 14 | 22 | 0 | 1 | 73 |
| R7 | 36 | 13 | 22 | 1 | 1 | 73 |

A+Bの割合 67%




●方針1　市民性を高める学習機会の提供

| | A | B | C | D | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| R4 | 15 | 7 | 11 | 2 | 0 | 35 |
| R5 | 17 | 7 | 10 | 1 | 0 | 35 |
| R6 | 18 | 6 | 10 | 0 | 1 | 35 |
| R7 | 20 | 5 | 9 | 0 | 1 | 35 |

A+Bの割合 71%

●方針2　ライフステージに応じた学習機会の提供

| | A | B | C | D | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| R4 | 12 | 11 | 10 | 0 | 0 | 33 |
| R5 | 13 | 8 | 12 | 0 | 0 | 33 |
| R6 | 16 | 6 | 11 | 0 | 0 | 33 |
| R7 | 13 | 8 | 11 | 1 | 0 | 33 |

A+Bの割合 64%

●方針3　多様な手段による学習情報の発信

| | A | B | C | D | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| R4 | 2 | 1 | 1 | 1 | 0 | 5 |
| R5 | 0 | 1 | 3 | 1 | 0 | 5 |
| R6 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 | 5 |
| R7 | 3 | 0 | 2 | 0 | 0 | 5 |

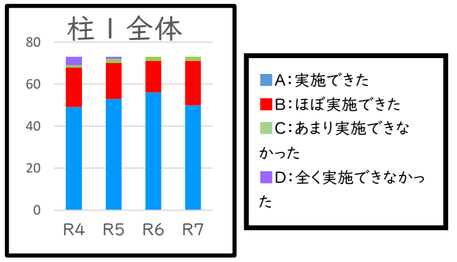
A+Bの割合 60%

#### ②事業内容に関する評価

◆柱1　集計

| 柱1 | A | B | C | D | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| R4 | 49 | 19 | 1 | 4 | 0 | 73 |
| R5 | 53 | 17 | 2 | 1 | 0 | 73 |
| R6 | 56 | 15 | 2 | 0 | 0 | 73 |
| R7 | 50 | 21 | 2 | 0 | 0 | 73 |

A+Bの割合 97%




●方針1　市民性を高める学習機会の提供

| | A | B | C | D | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| R4 | 25 | 8 | 0 | 2 | 0 | 35 |
| R5 | 29 | 5 | 1 | 0 | 0 | 35 |
| R6 | 28 | 6 | 1 | 0 | 0 | 35 |
| R7 | 27 | 8 | 0 | 0 | 0 | 35 |

A+Bの割合 100%

●方針2　ライフステージに応じた学習機会の提供

| | A | B | C | D | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| R4 | 22 | 11 | 0 | 0 | 0 | 33 |
| R5 | 23 | 10 | 0 | 0 | 0 | 33 |
| R6 | 25 | 8 | 0 | 0 | 0 | 33 |
| R7 | 20 | 12 | 1 | 0 | 0 | 33 |

A+Bの割合 97%

●方針3　多様な手段による学習情報の発信

| | A | B | C | D | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| R4 | 2 | 0 | 1 | 2 | 0 | 5 |
| R5 | 1 | 2 | 1 | 1 | 0 | 5 |
| R6 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 5 |
| R7 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 5 |

A+Bの割合 80%

### R7実績まとめ

柱1「生涯にわたって学べる環境づくり」は、中間アウトカムの一部に未達成が見られるものの、全体として多くの取り組みが実施され、生涯にわたる多様な学習機会の拡充を図ることが出来た。
デジタルツール活用も進展しつつあるが、アプリ登録者の伸び悩みも見られ、一層の工夫が必要である。

方針1の中間アウトカムである出前講座の受講者数は低下したが、多くの事業が「実施できた」「ほぼ実施できた」との評価となった。
人権学習の取り組みに未達成が見られるものの、各学区の推進員を中心とした主体的な活動が出来ている。
がん教育や介護予防、消費者教育など社会ニーズに応じた各講座にも成果が見られた。

中間アウトカムである動画再生回数は目標を大幅に達成、事業内容に関する評価では9割以上が「ほぼ実施」以上となり、ライフステージに応じた様々な取り組みが実施できた。
一方で、指標評価が前年度より実績が低下した取り組みもあり、事業内容の見直しによる更なる拡充が求められる。

生涯学習情の提供について、全体的にLINE公式アカウントなどSNSを利用した発信機会が前年度より増加している。
かんきょう宝箱のWebサイトのアクセス数は上昇し、情報取得機能を確立できているが、生涯学習情報ページへのアクセス数（中間アウトカム）や子育てアプリ登録者数などが伸び悩んでおり、効果的な周知に向けた工夫が必要である。

### R4～R7のまとめ

柱1「生涯にわたって学べる環境づくり」では、この4年間で、各施設での講座やイベントの開催促進を図るとともに、ライフステージに応じた多様な学習機会を提供した。
また、電子図書およびオーディオブックの利用促進やLINEやアプリなど、ICTを活用した学びの場の提供にも取り組んだ。
講座等の参加者の伸び悩みや固定化などの課題に対し、事業内容の見直しや情報発信の工夫を重ねながら、より多くの市民に学びを提供できるように努めていく。

各取り組みについては、目標達成に向け少しずつ成果が上がっている。
社会の急激な変化に対応しながら、効果的に事業を進めていくため、運用方法の見直や事業内容の充実、新たな学習コンテンツの検討などに取り組み、市民の主体的な学びの推進と地域に根差した多様な学習機会の提供に注力していく。

ICTの側面も取り入れながら、乳幼児期から高齢期までの各ライフステージに適した多様な学習機会を提供できた。
取り組み全体としては概ね順調に実施出来ているものの、指標評価による目標達成は全体の6割に留まったことも踏まえ、実績が伸び悩む取り組みについては、事業内容・手法の固定化や形骸化を見直し、ニーズに基づいた豊かな学びを支援していく。

学習情報の発信については、4年間で多様な媒体を活用した発信に取り組んできた、特にLINEやX(旧ツイッター)の活用は、若年層に効果が高いため、今後も積極的に活用していく。
提供情報の質の向上に加え、それぞれのターゲット層に合わせた情報発信手段の最適化を図っていく。

### 社会教育委員コメント

柱1
生涯にわたって学べる環境づくり

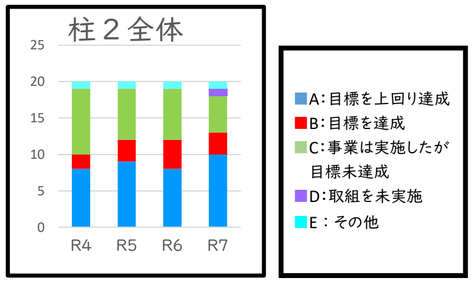
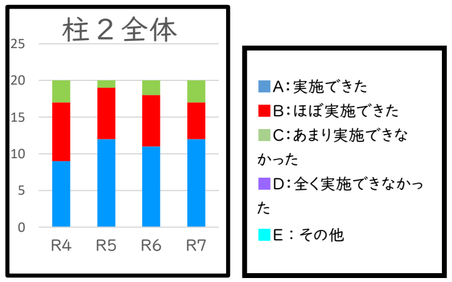
多くの市民の方が生涯にわたって学び続けることができる環境を作らねばならないが、市民の参加状況は、公民館等の講座における参加者数の伸び悩みと固定化が進んでおり、改善の必要がある。

広報の在り方の改善を進め講座等への参加者数を増やすことはまず求められよう。また、講座への参加者が固定化している現状も打破する必要がある。講座の在り方を不断に見直し、市民の学習ニーズに合致しているのか検証したり、市民参加による講座企画を進めたりするなど講座をはじめとする地域における生涯学習の在り方を検討し，改善する必要がある。

多様な媒体を活用して、学習情報の発信に取り組んできたことは評価する。今後は、若年層などターゲットに合わせた情報発信の改善が望まれる。

# 生涯学習推進計画進捗状況総括表

資料5-1

| | アウトカム<br>※計画実施の結果として生じる最終的な成果・変化 | 各所属の取り組みに対する個別評価<br>①指標および目標の達成 | 各所属の取り組みに対する個別評価<br>②事業内容に関する評価 | R7実績<br>まとめ | R4～R7<br>のまとめ | 社会教育委員<br>コメント |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 柱2　つながりづくりへの支援 | ◆目指す市民の姿(最終アウトカム)<br>**学びを通して地域の人たちとの交流・付き合いの広がりを感じている。**<br>・指標：学びを通して地域の人たちとの交流・付き合いの広がりを感じている人の割合　（R3　55.3%）→増加<br><br>◆最終の姿までの状態（方針1の中間アウトカム）<br>**市民が主体的に地域づくりに参加している。**<br>・方針1の指標：大津人実践講座受講者数<br>目標 / 実績 / 達成<br>R4 350 / 356 / ○<br>R5 370 / 371 / ○<br>R6 390 / 398 / ○<br>R7 420 / 424 / ○<br><br>◆最終の姿までの状態（方針2の中間アウトカム）<br>**地域と学校が一体となって子どもの成長を支えていく中で、学びを得ている。**<br>・方針2の指標：地域学校協働活動　活動数（回）<br>目標 / 実績 / 達成<br>R4 1,360 / ― / ―<br>R5 1,500 / 1,353 / ×<br>R6 1,580 / 1,382 / ×<br>R7 1,600 / 1,178 / ×<br><br>◆最終の姿までの状態（方針3の中間アウトカム）<br>**生涯学習に関わる様々な主体が連携することで、相互のつながりができている。**<br>・方針3の指標：生涯学習推進会議参加団体数（団体）<br>目標 / 実績 / 達成<br>R4 49 / 48 / ×<br>R5 50 / 41 / ×<br>R6 51 / 39 / ×<br>R7 52 / 38 / × | ◆柱2　集計<br>柱2 / A / B / C / D / その他 / 合計<br>R4 8 2 9 0 1 20<br>R5 9 3 7 0 1 20<br>R6 8 4 7 0 1 20<br>R7 10 3 5 1 1 20<br>A+Bの割合 65%<br><br><br>●方針1　住民主体の地域づくりの推進<br>A / B / C / D / その他 / 合計<br>R4 2 1 3 0 1 7<br>R5 1 2 3 0 1 7<br>R6 1 1 4 0 1 7<br>R7 2 1 2 1 1 7<br>A+Bの割合 43%<br><br>●方針2　地域と学校など多様な主体の連携協働の推進<br>A / B / C / D / その他 / 合計<br>R4 4 1 4 0 0 9<br>R5 7 1 1 0 0 9<br>R6 4 3 2 0 0 9<br>R7 6 1 2 0 0 9<br>A+Bの割合 78%<br><br>●方針3　ネットワーク型行政の推進<br>A / B / C / D / その他 / 合計<br>R4 2 0 2 0 0 4<br>R5 1 0 3 0 0 4<br>R6 3 0 1 0 0 4<br>R7 2 1 1 0 0 4<br>A+Bの割合 75% | ◆柱2　集計<br>柱2 / A / B / C / D / その他 / 合計<br>R4 9 8 3 0 0 20<br>R5 12 7 1 0 0 20<br>R6 11 7 2 0 0 20<br>R7 12 5 3 0 0 20<br>A+Bの割合 85%<br><br><br>●方針1　住民主体の地域づくりの推進<br>A / B / C / D / その他 / 合計<br>R4 2 4 1 0 0 7<br>R5 4 2 1 0 0 7<br>R6 4 1 2 0 0 7<br>R7 3 1 3 0 0 7<br>A+Bの割合 57%<br><br>●方針2　地域と学校など多様な主体の連携協働の推進<br>A / B / C / D / その他 / 合計<br>R4 5 3 1 0 0 9<br>R5 6 3 0 0 0 9<br>R6 5 4 0 0 0 9<br>R7 6 3 0 0 0 9<br>A+Bの割合 100%<br><br>●方針3　ネットワーク型行政の推進<br>A / B / C / D / その他 / 合計<br>R4 2 1 1 0 0 4<br>R5 2 2 0 0 0 4<br>R6 2 2 0 0 0 4<br>R7 3 1 0 0 0 4<br>A+Bの割合 100% | コニュニティー・スクールの全校導入や、地域と学校連携の推進、大津人実践講座によるまちづくりへの意欲促進、大学連携による多様な主体とのネットワーク形成に努めた。<br>一方で、一部事業で参加者及び活動実態が得られず、関心が低い層の取り込みが課題である。<br>参画を狙う層への効果的なアプローチなどの啓発方法の工夫や、事業手法の見直しが必要。<br><br>中間アウトカムである大津人実践講座受講者数は目標を達成。<br>介護予防活動団体への支援も順調だが、ジュニアリーダー育成、ボランティア指導者育成、社会教育関係団体等への補助金支援など、一部の事業はCやD評価となった。<br>参加及び活動意欲を促すよう、事業手法の見直しや啓発方法の工夫が必要。<br><br>中間アウトカムである地域学校協働活動数の伸び悩みが見られるものの、コミュニティ・スクールや学校夢づくりプロジェクト、寺子屋プロジェクト事業などで複数の取り組みで目標達成となった。<br>児童館では関連事業の実施実績は減少したものの、中高生を巻き込んだ事業の展開など積極的な活動拡充に努めた。<br><br>中間アウトカムである生涯学習推進会議の参加団体数は年々減少しているものの、会議自体への参加率は上昇しており、主たる活動である生涯学習フェスティバルへの参加人数も目標を大きく上回った。<br>また、大学との連携事業など全体的に順調に達成できている。参加団体の固定化や高齢化が課題としてあげられる。 | これまで4年間において、地域と学校、行政と大学、生涯学習を行う団体同士など多様な主体の連携・協働の促進に取り組んだ。<br>一方、中間指標を始めとする一部事業の伸び悩みや、活動団体等の固定化、若年層や子育て世代、新規団体などの参画不足など課題も見られる。<br>効果的な取り組みの工夫を行いながら、つながりのネットワークの拡充に努める。<br><br>おおつ学の実施を通した地域の担い手の育成や介護予防団体への活動支援、生涯学習専門等のコーディネート力の向上や地域の実情に応じた講座展開など様々な取り組みを実施できたが、社会教育団体への補助金の活動部門における利用団体がないことや指導者の育成に課題が見られる。<br>普及啓発活動の推進とともに、効果的な事業手法の検討もしていく。<br><br>コミュニティ・スクールの全校導入や寺子屋事業プロイジェクトを始めとする各種事業の実施など、学校と中心とした地域づくりの推進に努めた。<br>取り組み内容の充実など、更なる質の向上に努め、社会全体で子ども達を支える体制の強化を図っていく。<br><br>中間アウトカム指標は低下しているが、ほぼ全ての目標が達成となり、各主体間の連携に一定の成果がみられた。<br>参加者の固定化を防ぎ、若年層や子育て世代、新規団体などの参加意欲を高める取り組みが必要である。 | 柱2<br>つながりづくりへの支援<br><br>コミュニティ・スクールの導入や地域学校協働活動の実践が進みつつあることは評価できる。<br><br>地域学校協働活動を核とした多様な主体の連携・協働の展開が大いに期待されるところであるが、その活動数の伸び悩みが課題である。活動の数、活動の質を高めるとともに、地域学校協働活動が核となって地域づくりが取り組まれるように支援のレベルアップが求められる。<br><br>一方で、公民館事業への参加者の伸び悩み、公民館等での活動する団体の固定化が進んでいること、若年層や子育て世代などの参画が進んでいない現状を変える必要がある。若年層や子育て世代の参画が進むような施策の工夫が求められる。 |

# 生涯学習推進計画進捗状況総括表

資料5-1

## 柱3　学習成果の活用への支援

### アウトカム
※計画実施の結果として生じる最終的な成果・変化

◆目指す市民の姿(最終アウトカム)

すべての市民が、学びを通じて身に付けた知識・技能や経験を生かしている。

・指標：学びを通じて身に付けた知識・技能や経験を生かしている人の割合　（R3　60.0%）→増加

◆最終の姿までの状態（方針1の中間アウトカム）

それぞれの学びに応じた成果の活用の場に参加している。

・方針1の指標：公民館やコミュニティセンターでの利用者団体の学習機会提供回数（回）

| | 目標 | 実績 | 達成 |
|---|---|---|---|
| R4 | 450 | 401 | × |
| R5 | 500 | 456 | × |
| R6 | 600 | 420 | × |
| R7 | 700 | 358 | × |

◆最終の姿までの状態（方針2の中間アウトカム）

学習成果を活用することで、次の学びや活用への意欲が喚起されている。

・方針2の指標：大津人実践講座アンケートで「意欲がとても沸いた」人の割合（%）

| | 目標 | 実績 | 達成 |
|---|---|---|---|
| R4 | 25 | 11 | × |
| R5 | 30 | 15 | × |
| R6 | 35 | 50 | ○ |
| R7 | 40 | 24 | × |

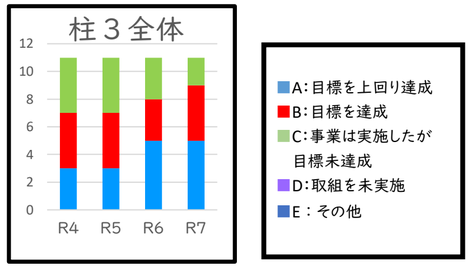
### 各所属の取り組みに対する個別評価

#### ①指標および目標の達成

◆柱3　集計

| 柱3 | A | B | C | D | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| R4 | 3 | 4 | 4 | 0 | 0 | 11 |
| R5 | 3 | 4 | 4 | 0 | 0 | 11 |
| R6 | 5 | 3 | 3 | 0 | 0 | 11 |
| R7 | 5 | 4 | 2 | 0 | 0 | 11 |

A+Bの割合 82%




●方針1　学習成果の活用の場づくりの推進

| 方針1 | A | B | C | D | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| R4 | 1 | 3 | 3 | 0 | 0 | 7 |
| R5 | 2 | 3 | 2 | 0 | 0 | 7 |
| R6 | 3 | 2 | 2 | 0 | 0 | 7 |
| R7 | 3 | 3 | 1 | 0 | 0 | 7 |

A+Bの割合 86%

●方針2　学びと活動の好循環

| | A | B | C | D | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| R4 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 4 |
| R5 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 4 |
| R6 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 4 |
| R7 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 4 |

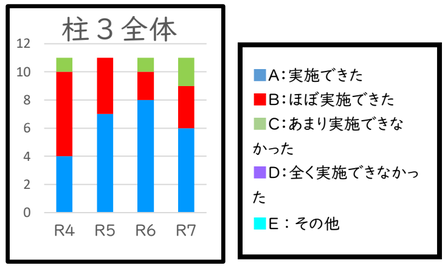
A+Bの割合 75%

#### ②事業内容に関する評価

◆柱3　集計

| 柱3 | A | B | C | D | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| R4 | 4 | 6 | 1 | 0 | 0 | 11 |
| R5 | 7 | 4 | 0 | 0 | 0 | 11 |
| R6 | 8 | 2 | 1 | 0 | 0 | 11 |
| R7 | 6 | 3 | 2 | 0 | 0 | 11 |

A+Bの割合 82%




●方針1　学習成果の活用の場づくりの推進

| | A | B | C | D | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| R4 | 3 | 3 | 1 | 0 | 0 | 7 |
| R5 | 4 | 3 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| R6 | 5 | 1 | 1 | 0 | 0 | 7 |
| R7 | 4 | 2 | 1 | 0 | 0 | 7 |

A+Bの割合 86%

●方針2　学びと活動の好循環

| | A | B | C | D | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| R4 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| R5 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| R6 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| R7 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 4 |

A+Bの割合 75%

### R7実績まとめ

柱3「学習成果の活用への支援」については、利用者団体による学習機会提供回数や、大津人実践講座受講後の意欲喚起割合など、中間アウトカムの達成に課題を残した。

しかし、公民館利用者団体の講師起用や文化祭支援、専門員のコーディネート機能拡充など、個別の事業では、学びと活動の好循環に寄与することができた。

中間アウトカムは目標未達成であるが、文化活動の発表場所の提供や文化祭への支援の指標は概ね達成。

利用者団体が講師を務める講座数も増加。地域学校協働本部設置数は目標未達だが、推進員研修会と事例集配付により活動の質的向上を図った。

ボランティア指導者登録者数の減少など課題もみられる。

中間アウトカムの目標は未達成であるが、指標である「意欲がとても沸いた」以外は全て「意欲が沸いた」の回答を選んでおり、学習意欲向上の効果が高いことを示す結果となった。

生涯学習専門員等への研修の充実により、同職員による各種団体や地域などへのコーディネート機能の拡充が進んでいる。

### R4～R7のまとめ

柱3「学習成果の活用への支援」について、市民の学習成果の発表の場の機会の提供を確実に行うとともに、生涯学習専門員のコーディネート能力や大津人実践講座での主体的な議論などによる地域の課題解決力の向上に取り組んできた。

引き続き、学びの成果を活用できるための環境づくりに取り組んでいく。

4年間で、利用者団体が講師を務める講座や文化祭支援、施設の活用推進等を通じて、学習成果の発表の場の確保に努めてきた。

しかし、利用者団体の学習機会提供回数やボランティア指導者の登録者数については減少している。

様々な主体がそれぞれの学習成果を活用できるよう、引き続き支援していく。

研修などによる生涯学習専門員のコーディネート能力の向上や、各種団体（地域人推協、社協、自治連合会、学校）の連携促進に取り組めた。

大津人実践講座では受講者の地域づくりへの意欲向上が見られた。

一方、ボランティア指導者数の減少など、主体的な活動に課題がみられる。

### 社会教育委員コメント

柱3
学習成果の活用への支援

利用者団体による講座や文化祭支援等を通じて、学習成果の活用が進むように取り組んできたにもかかわらず、利用者団体の学習機会の提供回数、ボランティア指導者の登録者数が減少するなど、ボランティアの育成や学習のリーダーの育成に課題がある。

学習成果の活用についても、従来の見方（講座の開講など）に限定せず、学習成果が生き方の充実や仕事の場面で活きるなど成果の活用の場を広く取ることも求められよう。そもそも、市民の多様な学習ニーズに対して、対応できている部分はどの範囲であるのかなど精査も必要である。

地域学校協働活動の推進に資する講座の開発や、学校司書の補完的な役割を果たしてもらえる人材の育成など学校現場のニーズに合致したボランティアの育成の戦略的展開など工夫の余地はある。